

2017年10月24日

2017年度 第9回Jリーグ理事会後定時会見 発言録

2017年10月24日(火)

場所:JFAハウス

[司会より]

本日の理事会は14時から理事18名で開催いたしました。理事会における決議事項、報告事項のうち本日発表させていただく内容についてチアマンの村井よりご説明申し上げます。

《決議事項》

1. 2017シーズン功労選手賞の件
2. 2018シーズン J3クラブライセンス判定の件(現J3クラブ)
3. ホームタウン追加の件(湘南)

1. 2017シーズン功労選手賞の件

本年度の功労選手賞は2名を表彰します。

一人目は、市川大祐さんです。

清水エスパルス、ヴァンフォーレ甲府、水戸ホーリーホック、藤枝MYFCでプレー。通算合計511試合。基準を満たしたので功労選手賞として表彰することが決定しました。

二人目は大島秀夫さんです。

横浜フリューゲルス、京都サンガF.C.、モンテディオ山形、横浜F・マリノス、アルビレックス新潟、ジェフユナイテッド千葉、北海道コンサドーレ札幌、ギラヴァンツ北九州でプレー。通算合計で581試合。500試合という基準を上回っているので、お二方を本日、功労選手賞として表彰することを決定しました。12月5日に開催するJリーグアワーズで表彰予定です。

2. 2018シーズン J3クラブライセンス判定の件(現J3クラブ)

J3クラブの中でJ1、J2のクラブライセンスに申請しているクラブに関しては9月に合否判定を伝えました。J3に在籍し、J3のクラブライセンスに申請したクラブは理事会にて審議の結果、資料に記載の7クラブ(盛岡、秋田、福島、YS横浜、相模原、藤枝、沼津)に交付することとなりました。

3. ホームタウン追加の件(湘南)

湘南ベルマーレのホームタウンの追加申請がありました。審議の結果、認めることとなりました。これまで、厚木市を始めとした 7 市 3 町でしたが、新たに、鎌倉市、南足柄市、大井町、開成町、中井町、箱根町、松田町、真鶴町、山北町、湯河原町など 2 市 8 町が追加し、9 市 11 町をホームタウンとして活動が認められました。

[村井チアマンからコメント]

会の最後に出席全理事より浦和レッズに対し「ACL決勝を頑張って」と激励しました。浦和としては 2007 年の優勝以来 10 年ぶりの決勝となります。リーグとしてもガンバ大阪が 2008 年に優勝以来、久しくファイナリストではありませんでしたが、浦和とアルビラルとの対決に、リーグをあげて「絶対に勝とう」という話をしました。

ルヴァンカップの決勝が控えています。決勝はセレッソ大阪と川崎フロンターレの対戦となります。両クラブとも初タイトルのかかった試合です。C 大阪は決勝には初進出ですが、川崎 F は 8 年ぶりとなります。ファン・サポーターや両チームの想いは非常に大きなものとなります。昨年、埼玉スタジアム 2002 をホームとする浦和が決勝に進出しましたが、昨年度以上の入場者数が、発券ベース、入場見込みベースで上回っています。2002 年の鹿島アントラーズ対浦和レッズがリーグカップ戦のご来場いただいた最高記録でした。国立競技場での開催でしたが、それを上回る勢いであると試算しています。盛り上がることを大変楽しみにしています。

シーズン制の議論は継続的に JFA と Jリーグが議論しています。議論の場である先般行われた将来構想委員会の内容を、本日の理事会で報告しました。議論の見通しは、来月の Jリーグ実行委員会 (J1、J2、J3 をそれぞれ分けて行なう) および理事会に JFA 田嶋会長に来ていただくことになります。その場での議論が、Jリーグ側としては今年の最後になるかもしれません。12 月も開催するため最後と確定しているわけではないですが、来月しっかりと議論をしましょうと話しました。将来構想委員会で議論された内容に関しては、JFA 側からシーズンを移行する場合のスケジュール案が示されました。Jリーグ側としては、シーズンを移行しない場合のスケジュール案を付け合わせて、両案をそれぞれの角度から検討していきます。本日の理事会では、直近の将来構想委員会で示された移行案と移行をしない案を議論したことを報告しました。本日の理事会で、何かが具体的に決まったわけではありません。次回の JFA とのディスカッションを踏まえて、今年のうちに、最終的な方向性を示したいと考えています。

シーズン終盤に差し掛かり、J1、J2、J3 の入場者数の推移は、J1 は第 30 節までの同時期の比較で言うと 107%。延べ数で言うと、J1、J2、J3 では 1,000 試合ほどあり、年間 1,000 万人近い入場者数を記録していますが、その中心を占める J1 が 7% 増で推移しています。今年は、J1 は 1 ステージ制に戻ったシーズンですが、ファン・サポーターの皆さんのご協力をいただいて昨年度を上回る推移となりました。J2 は昨年並みとなります。一方で J3 が昨年を下回っています。U-23 の入

場者数(の向上)が図られていないという要因もあります。苦戦してはいますが、(J1、J2、J3の)総合計では昨年を上回る見込みとなります。

【質疑応答】

Q:シーズン移行に関することで、年度内に最終的な方向性をつけるというのは、年内(12月)でしょうか？

A:村井チエアマン

今年中を目処としています。

Q:ビデオ判定導入の報道がありましたが、この件について議論などは行われたのでしょうか？

A:村井チエアマン

本日は、(2017シーズンよりJリーグ YBC ルヴァンカップで導入した)アディショナルアシスタントレフエリー(AAR:追加副審)について、経過報告がありました。ペナルティーエリアの中で、悪質なファウルの出現頻度が上がったのか、下がったのか。この点について、ある種ゴールポストの横に一人審判が立っていますので、抑制機能になっており、一部が改善したという記録が出ています。その他、いくつかのシーンにおいてVTRを検証し、AARがどう機能していたのか、どのような課題があるのかを総括し議論しました。一方で、世界レベルでビデオ判定やビデオアシスタントレフェリーの導入実験も繰り返されており、日本もトライアルとして実験をスタートしてはどうかという提案も挙がりました。詳細について詰めていくべき事がありますので、確定したタイミングで報告できればと思います。ビデオアシスタントレフェリーとこれまでのAARとの両方を並走してトライしてみてはどうかという意見も出ており、最終的には、皆さんにお伝えできる段階で改めて報告したいと思います。

Jリーグより補足説明：

本件は、日本サッカー協会でも決議いただく内容ですので、両者が整ったところで改めて説明会を開きたいと考えています。

Q:ルヴァンカップの決勝の舞台は今後も埼玉スタジアム2002の流れですか？東西に分かれてしまうこともあるのでしょうか？西のクラブからするとアウェイ感が少しあるのではないかと感じます。

A:村井チエアマン

スタジアムについては年度で判断しています。そのため、将来についてはまだ決めていません。今後、新国立競技場が完成し使用する可能性もありますし、おっしゃっていただいたように西にもよいスタジアムがあるので、東西でという可能性も考えられます。総合的な判断で決めたいと思っておりますが、現時点では決めていない状況となります。

以上